太田美帆 准教授

Miho Ota

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科
JICA（国際協力機構）青年海外協力隊事務局ボランティア技術顧問（コミュニティ開発分野）、農村開発分野の専門家、研修講師なども務めている。共訳書に『貧しい人を助ける理由』（日本評論社）

研究室訪問 ⑨

多様な研究室は、玉川大学の教育の原動力です。
その探究の様子と学生の学びを紹介します。

研究テーマ

農村社会開発

戦後日本の農村における生活改善の実践を紐解き、途上国の開発協力に活かす

2018年、19年に計２カ月、JICA「住民関与を目指した地方行政支援プロジェクト」でブータンへ。短期専門家として、住民の声を引き出し開発計画を立案する手法を現地行政官らに伝えた

研究室にはアジア、アフリカ、中南米など、訪ねた先でいただいた民芸品をたくさん飾っています。私の研究分野は国際協力、農村社会開発です。原点は学生時代にフィリピンで経験した植林ボランティア。「日本人がここをはげ山にしたんだよ」と現地の人に言われ、日本の豊かさと途上国の問題は表裏一体なのだと気づかされたことが、この道に進むきっかけになりました。

大学卒業後は青年海外協力隊に参加してガーナへ。主に「家族計画」の普及に携わりました。農業などの技術の普及と異なり、生活分野の普及活動は成果がすぐには見えません。試行錯誤する中でたどり着いたのが、戦後日本の農村で生活向上に大きく貢献した「生活改良普及員」の存在です。

当時、普及員は農村の民主化を担う存在でした。専門の養成所で家政学などを学び、女性が担っていた衣食住、育児、地域活動といったことの技術向上、効率化、共同化を通して、女性の能力開発、社会参加促進を実現してきました。私が注目するのは１９５０年代から70年代にかけてです。栄養価の高い離乳食づくりによる乳児死亡率の低減、熱効率の良いかまどの導入による家事労働の軽減など、かつての途上国、日本での実践は、21世紀の途上国が今も直面している課題を解決する、示唆に富むものです。

私は普及員の手法を学び、国際協力の現場に取り入れたいと考え、以後普及員とその教えを受けた女性を全国に訪ね、聞き取り調査を重ねています。

普及員の活動の根幹は、問題を抱えた人たちと向き合い、悩みを聞き、ともに解決策を考えて実践すること。今日的な「ファシリテーション」で、人を育て、仲間をつくり、地域を活性化するのです。地域起こしにも通じる、この普及員の社会開発手法こそ、世界で求められていると感じています。

続く被災地との交流と「恩送り」のこころ

なぜ貧しい人たちを助ける必要があるのか？　私は担当する「国際協力」の授業で、学生に常にそう問いかけています。環境問題をはじめ、多くの国際的な問題は先進国由来であり、他人事ではありません。自分の暮らしが一因となれば、解決に携わるのは地球市民として当然のことだと思うのです。

ゼミは東日本大震災被災地の陸前高田市を夏休み中に訪問・交流する「ゼミ合宿」を軸に活動しています。合宿の始まりは２０１１年で、学生は仮設住宅で行うお祭りを企画したり、被災者の聞き書きプロジェクトに参加したりしてきました。聞き書きの成果は『被災地の聞き書き１０１』（東京財団）という本に収められました。

パンデミック以降、合宿はオンラインでの交流に。２０２１年はりんごジュースをつくる「らら・ぱれっと」さんの商品ラベルデザイン、地元の海産物・農産物を使った食品づくりをしている「工房めぐ海（み）」さんのおやきのＰＲ、防災意識向上につながるグッズづくりなどに取り組みました。

10年続く合宿について、うれしいことに学生は「先輩が築いた陸前高田とのご縁を絶やさず発展させたい」と言ってくれます。陸前高田の皆さんから教えていただいたことを、後輩にしっかりと伝える。これは受けた恩を、その人に返すのではなく、別の人に送る「恩送り」です。

思えば私の研究も恩送りにほかなりません。普及員の方々に教えていただいたことを途上国の農村社会開発に役立てていく。そんな「恩送り」の研究をこれからも続けたいですね。

1 陸前高田でつくられたゼリー飲料に、ゼミでデザインしたラベルを貼る。大学とのコラボレーションが話題になり、売上確保につながればと考え挑戦した　2 今年度のゼミ活動を振り返る。ゼミ合宿は、オンラインの交流にとどまった前年度からさらに発展した内容になった

Student's Voice

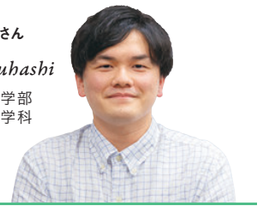
ゼミ活動を通して人のつながりの大切さを学んだ

２年次に先輩から「活動が充実しているよ」と勧められ、被災地訪問の希望もあって太田ゼミに。ただ、コロナ禍で３年次、４年次と陸前高田の方々との交流はオンラインに。残念でした。

ゼミ長になった４年次は、オンラインであっても合宿の結果が形になることをしたくて、陸前高田の商品販促や防災意識向上につながる内容にしました。私は「防災班」で、防災グッズや防災ゲームをつくり、成果は町田市のオンラインイベントで発信することもできました。

卒業論文は、食品ロスがテーマです。ロス削減に向けた具体的な提案になるような内容に仕上げることが目標で、国際的な視野で研究している太田先生のアドバイスは考察を深めるのに大きな助けになっています。

太田ゼミは活動が多く、ゼミ生との連絡だけでもたいへんでしたが、陸前高田の方々とのつながりを含め、ここでの経験は僕の財産になるでしょう。卒業後は福祉分野で働きます。福祉の仕事は人とのつながりが大事です。ゼミでの経験を活かしたいです。



三橋昇太さん

Shota Mitsuhashi

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科
4年